

調査箇所①-②の成果 ～下段石垣の続きと瓦を発見～

天守南通路西側では、令和5年度の調査で『稲葉城趾之図』に描かれているとおり、通路下段の石垣を確認しました。また、石垣の前面から、円礫とかわらけが大量に出土し、通路上に庭的空間や饗応（おもてなし）の施設が存在した可能性が出てきました。

今年度の調査では、通路下段石垣の続きと、饗応の場に関する遺物の確認を目指して調査を行いました。



天守南通路西側調査箇所（遠景）



絵図に描かれた通路の石垣
『稲葉城趾之図』（江戸時代、伊奈波神社所蔵）



石垣前面で出土した瓦

調査の結果、絵図のとおり、石垣が南に続いていることがわかりました。

また、今年度の調査範囲では、かわらけの出土量がわずかで、石垣前面には、瓦がまとまって出土するという、昨年度とは様相が異なった状況を確認しました。

瓦は、昨年度みつかったかわらけや円礫と同様に通路上部から崩落したものと見られます。このことから、通路上に瓦葺きの施設が存在した可能性が出てきました。

調査箇所②の成果 ～豎堀の可能性ある岩盤の落ち込み～



調査区近景（東から）



岩盤の落ち込み（近景）

一ノ門の北側では、東側斜面の下方に残る豎堀が通路付近まで伸びているかどうかの確認を行いました。調査の結果、岩盤の落ち込みと、その後その落ち込みを埋めて平坦にしている状況を確認しました。確認した落ち込みは豎堀の可能性があるので、今後も調査を継続していきたいと考えています。

R724 岐阜市の日本遺産「信長公のおもてなしが息づく戦国城下町・岐阜」は、優れた取組実績・計画で他のモデルとなる【日本遺産重点支援地域】に認定されました！

令和7年2月8日（土）
岐阜市ぎふ魅力づくり推進部文化財保護課
公益財団法人岐阜市教育文化振興事業団

令和6年度史跡岐阜城跡発掘調査成果

令和6年度史跡岐阜城跡
発掘調査現地説明会資料

今年度は天守南通路西側の2箇所と、一ノ門北側1箇所で調査を実施しました。天守南通路西側では、石垣の確認などを目的に調査したところ、2つの成果がありました。

また、一ノ門北側では豎堀の確認を目的に調査を行いました。



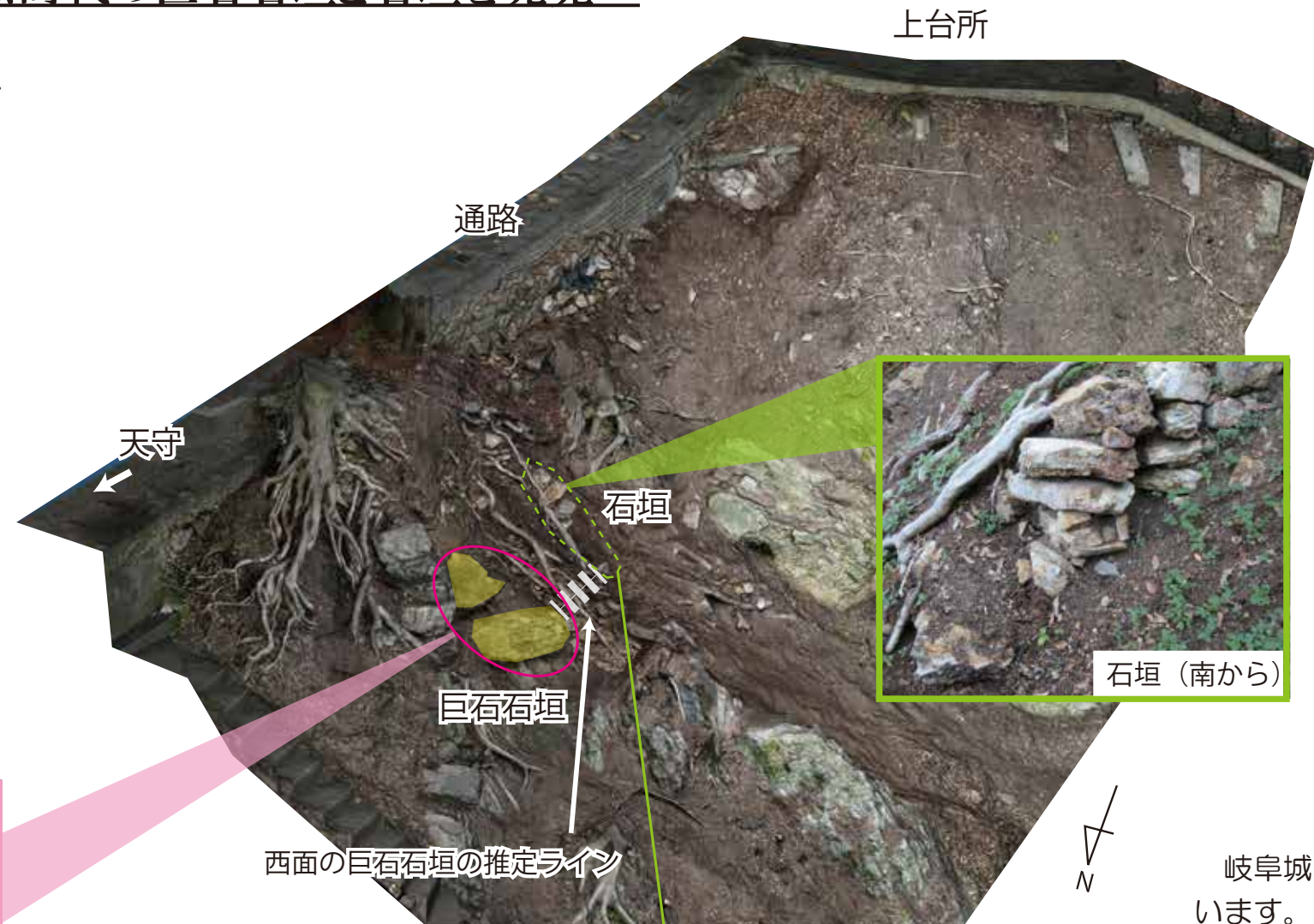
令和6年度発掘調査箇所

調査箇所①-④の成果 ～道三公時代の巨石石垣と石垣を発見～

「^{かみだいどころ}上台所」と伝わる平坦地（付近）の北側は、『^{いなばじょうしのす}稲葉城趾之図』には石垣が描かれていない場所ですが、現地に石材が見られたため、調査したところ、「コの字状」に構築された巨石石垣と石垣を確認しました。

この場所に、北側（天守側）と西側を巨石石垣、南側（上台所側）を石垣で支える構造の平坦地があったと考えられます。西面を支えていた石材は^{すみいし}角石以外は崩落し、背後に充填されていた裏込め礫が流れ出てきている状況が確認できました。裏込め礫はひとつづきに充填されたとみられ、巨石石垣と石垣は同時に造られたものであることがわかりました。

南側の石垣は、積み方や石材の特徴などから、斎藤道三公時代のものであり、よって巨石石垣も同時期と考えられます。



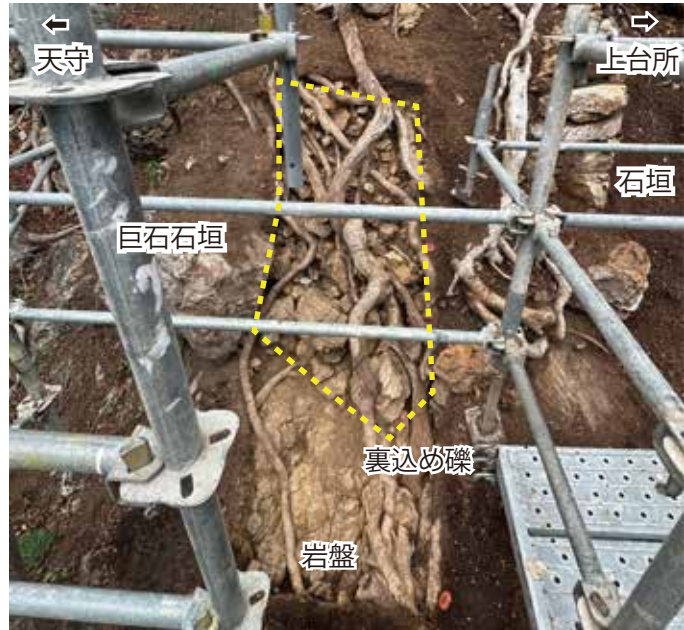
一ノ門の
◀巨石石垣



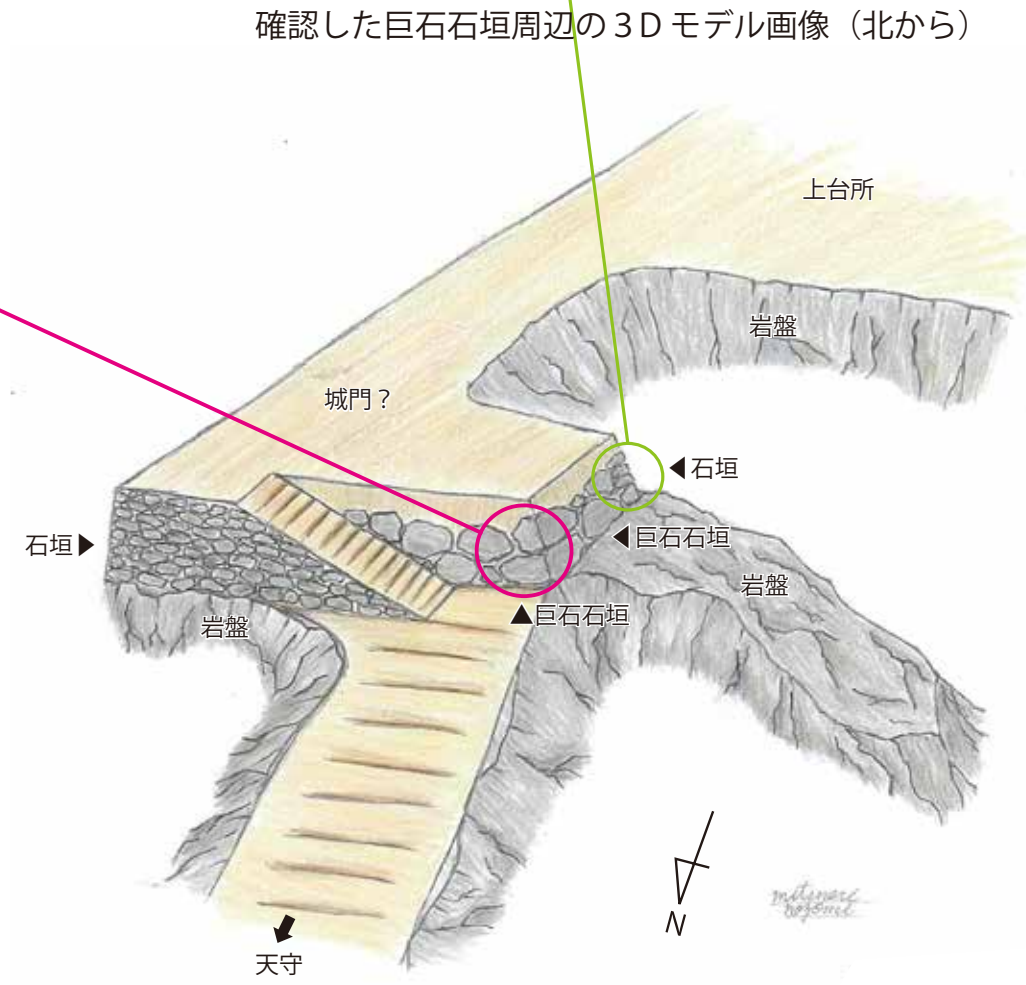
裏門の
巨石石垣▶



確認した巨石石垣（北から）



調査区近景（西から）



道三公時代の上台所周辺イメージ

岐阜城ではこれまで一ノ門や裏門でも巨石石垣を確認しています。

左のイラストは、今回の調査成果に基づき復元した、道三公時代の上台所周辺の想像図です。今回確認した巨石石垣と石垣を組み合わせ、^{かみだいどころ}「上台所」へ入るための場所に城門が構築されていた可能性があります。

この場所は、信長公によって天守と上台所をつなぐ通路に改修され、現在見られるような姿になったと考えられます。



調査区遠景（北から）